

【2024 年度シラバス】

科 目 名	理系のための基礎英語 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn general vocabulary used in basic mathematics. This vocabulary is learned by American children in school, from first grade to early middle school. Course content focuses on reading mathematic notations, and listening. This class is held in English.</p> <p>基本的な数学の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが小学1年生から中学校までに学校で学ぶ単語です。この科目では、数学式の英語でのリーディングとリスニングにフォーカスします。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 数学式を英語で読めることができる。</li> <li>3. 英語を聞いて式を書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	80%	定期試験		
	専門知識	10%	定期試験		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	10%	ワークシート		
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	Placement Test プレースメントテスト				
2.	“Numbers” 一般の数字について				
3.	Addition 足し算について				
4.	Subtraction 引き算について				
5.	Multiplication 掛け算について				
6.	Division 割り算について				
7.	Fractions 分数について				
8.	Decimals & Percents 小数とパーセント				
9.	Negative Numbers & Inequalities 負数と不等式				
10.	Exponents & Roots 指数とルート				
11.	Geometry 1: Lines & Angles 幾何学1:直線と角度				
12.	Geometry 2: Polygons, Circles and Solids 幾何学2:多角形、円、立体				

13.	Using Data テーブルを使ってデータを表す				
14.	Review レビュー				
15.	Review レビュー				
授業外学修について	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンにeLearning教材がついている。eLearningの課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60%	20%	0%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(理系のための基礎英語 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	教養英語 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業では、総合的に reading / writing / speaking / listening skills を強化することを目的とし、それらの能力向上のために幅広いテーマを用いた教材を扱い、読んだものや動画で見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。英語のアウトプットには一定数の語彙が必要だが、本授業で語彙を学習する際は学習対象の語彙だけでなく、一緒に使われる言葉や前置詞なども合わせて学習し、実践的に用いることができることを目指す。また、目的に応じたさまざまな種類のパラグラフを学び、新出語彙・イディオムや基本的な文法の確認を行う。文章を構成する各パラグラフの関係を把握し全体の主旨を読み解いていくための基本的なリーディング・スキルを習得する。なお、一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長文の英語を読解する際に必要なスキル(スキミングやスキヤニング)を学習し、リーディングに活用することができる。</li> <li>2. 英語のパラグラフの構成を理解し、ライティングに活用することができる。</li> <li>3. 読んだものや見たものの内容について、クリティカルに考え、クラスメイトとディスカッションすることができる。</li> <li>4. 読んだものを自分のことばで英語でまとめることができる(サマリー)。</li> <li>5. 授業で扱うテーマについて、自分の意見を英語で書いたり(180語程度)、話したりすることができる(1分半程度)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト、レポート等、プレゼンテーション		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10%	レポート等、プレゼンテーション		
	論理性	20%	その他テスト、プレゼンテーション		
	国際性	10%	その他テスト、レポート等		
	協調性	10%	取組状況等		
	創造力	10%	レポート等、取組状況等		
責任感	10%	レポート等、取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、英語のライティングについて				
2.	英語のライティングと発音について				
3.	Unit 1 言語としての「英語」の立ち位置、語彙 equa- / equi-, fact vs. opinionを読み取る				
4.	Unit 1の続きとUnit 2 言語消滅について				
5.	Unit 2, prim-に関する語彙、fact vs. opinionと読み取る、グループディスカッション				
6.	Unit 3 人口について、サマリーの仕方、pre-に関する語彙				
7.	Unit 3の続きとUnit 4				
8.	Unit 4 人口増加について、ex-に関する語彙、書き手のニュアンスをReading passageから読み取る練習				

9.	Unit 4の続きとUnit 5 価値と対価、pend/pentに関する語彙				
10.	Unit 5、意見の述べ方・書き方について				
11.	Unit 6 スポーツと経済について、tractに関する語彙、意見をサマリーする練習				
12.	Unit 6の続きとUnit 7 地球温暖化について				
13.	Unit 7 dict-に関する語彙、グラフのまとめ方について				
14.	Unit 8 地球温暖化の真相、				
15.	Preparation for final exams				
授業外学修について	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。 (予習 90分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や動画に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。</li> </ul> <p>(復習 60分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。</li> <li>・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。</li> <li>・単語学習には Quizletを使用するため、各自授業時間外にアプリをダウンロードしておくこと(使い方などは授業内で説明)</li> </ul>				
教科書	"In Focus 2" Charles Browne, Brent Culligan and Joseph Phillips (Kinseido)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	○	○
成績評価の割合	20%	30%	20%	20%	10%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進捗や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> <li>・本授業での定期試験は筆記試験ではなく、レポートやプレゼンテーション・スピーキングとする。詳細は授業内で説明をする。</li> </ul>				

(教養英語 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	英語基礎 I				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、英語の基礎力を身につけることに主眼を置いている。これは、大学においてより高度な英語力を身につけ、仕事に使えるような実践的な英語運用能力を修得するためには、まず「土台」を堅固なものにしなければならないからである。具体的には、演習問題、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力の修得のための基礎となる・語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力を身につけることを目指す。特に授業においては、英文解釈の演習問題を通して英文構造の分析と把握に努めていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業を通して、英文法の知識を再編して、構文を論理的にとらえる力とともに、英文内容を正確につかむための基礎力を養うことができる。</li> <li>2 授業中に課される演習問題を通して、上記1の基礎力の定着を図ることができる。</li> <li>3 音声副教材の問題を解くことで、基礎的な聴解力の向上を図ることができる。</li> <li>4 語彙副教材の問題を解くことで、日常基本英単語・熟語1000語を習得できる。</li> <li>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	期末テスト、速読読解力小テスト、リスニング小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題提出(多読・リスニング・語彙・プリント)、		
	論理性	20%	授業中の演習問題(英文解釈)		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	演習問題: 文型判断、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
3.	演習問題: 接続詞、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
4.	演習問題: 句と節、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
5.	演習問題: 形と意味①、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
6.	演習問題: 形と意味②、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
7.	演習問題: 準動詞①、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
8.	演習問題: 準動詞②、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
9.	演習問題: 後置修飾、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
10.	演習問題: 文頭の句・節、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				

11.	演習問題: 同格、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
12.	演習問題: 倒置、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
13.	演習問題: 省略、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
14.	演習問題: 名詞構文、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
15.	まとめ				
授業外学修について	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 プリント課題(英作文・英文解釈) 2 副教材の課題(リスニング・語彙) 3 多読の課題(1週間に2500語以上読んで多読シートを提出)				
教科書	1 佐藤誠司『日常基本英単語・熟語1000』(南雲堂) 2 Timothy Minton 『Listening Cornerリスニング・コーナー』(成美堂) 授業における演習問題についてはプリントを配布する。				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50%%	10%%	30%%	0%%	10%%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語基礎 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	理系のための基礎英語Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn basic vocabulary used in the physical sciences, focusing on waves and light. This vocabulary is learned by American children in middle school. Course content focuses on completing science-based tasks in English.</p> <p>基本的な理科の単語を学ぶ。この単語はアメリカ人の子供たちが中学校で学ぶ単語です。この科目は波と光にフォーカスします。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理科関係の英単語を分かることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. 理科学的な結果を英語で書くことができる。</li> <li>4. 簡単な文章を読むことができる。</li> <li>5. 平易な英文を書くことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50%	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	50%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Introduction イン트로ダクション				
2.	Principles of Physical Science 基本的な理科単語				
3.	Mechanical Waves -- Kinds of Waves 力学的な波 -- 波の種類				
4.	Parts of a Wave 波の要素				
5.	Reflection & Diffraction 反射と回折				
6.	Electromagnetic Waves 電磁波				
7.	Visible Spectrum 可視スペクトル				
8.	Transmission 伝搬				
9.	Reflection of Light 光の反射				
10.	Color Absorption 光の吸収				
11.	Scattering 散乱				
12.	Convex & Concave Mirrors 凸面鏡と凹面鏡				
13.	Refraction 屈折				

14.	Review レビュー				
15.	Review レビュー				
授業外学修について	Every lesson has a corresponding eLearning lesson. The eLearning lessons are required, but each student may choose to do them after or before the lectures. 各レッスンにeLearning教材がついている。eLearningの課題課題は必須。学生は講義の前か後のどちらかで取り組まなければならない。				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	○
成績評価の割合	60%	20%	0%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(理系のための基礎英語Ⅱ)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	教養英語Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業は、幅広いテーマの読み物の読解や動画の視聴を通じて、表現や語彙の学習を行い、読んだものや見たものを自分のことばでアウトプットすることに重点をおく。本授業の目的は、英語の4技能(リーディング、スピーキング、ライティング、リスニング)の能力を総合的に強化することである。伝わりやすいアウトプットの産出を目指すため、わかりやすい発音やロジカルなライティングができるスキルの向上を目指す。また、今後、上の学年へ進学しても継続的に語学学習をするために、本授業ではセルフスタディー(自律学習)を1学期を通して実施し、その過程や成果を授業の成績へ反映する。タイミングが合えば、海外の大学と交流を持ち、英語を実用的に用いて、その能力の向上を目指す。なお、一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的なトピックセンテンスを書くことができる。</li> <li>2. 授業で取り扱うテーマの内容について、自分の意見を英語で書いたり(250語程度)、話したりすることができる(2分半程度)。</li> <li>3. 授業で取り扱うテーマの内容について、自分のことばでまとめることができる(サマリー)。</li> <li>4. 伝わりやすい発音で英語を発話することができる。</li> <li>5. 自分で学習目的をたて、それを達成するために学習計画や学習内容を管理し、自分の学習を客観的に振り返りながら、自律学習ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト、レポート等		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	レポート等		
	論理性	10%	その他テスト		
	国際性	10%	レポート等、取組状況等		
	協調性	10%	取組状況等		
	創造力	10%	レポート等、取組状況等		
責任感	10%	レポート等、取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーション、英語の書き方について(春学期のレビュー)				
2.	Unit 1を使って教科書の使い方を説明、移住について、助動詞を使った発音練習				
3.	Unit 1の続きとライティング、動画視聴				
4.	Unit 4 価値、金融・お金についての語彙学習、発音練習				
5.	Unit 4 まとめ				
6.	Unit 7 旅行、公共交通に関する語彙学習、動画視聴				
7.	Unit 7 まとめと発音、ライティング				
8.	Unit 8 スポーツと競争、スポーツに関する語彙学習、ライティング				
9.	Unit 8 まとめ				

10.	Unit 9 危機、危機・恐怖に関する語彙、ライティング				
11.	Unit 11 テクノロジーと学習、語彙、動画視聴				
12.	Unit 11 ライティングとまとめ				
13.	Unit 12 発明、発明や改革についての語彙と動画、発音練習				
14.	Unit 12 まとめ				
15.	Preparation for Final exam				
授業外学修について	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。(予習 60分、復習40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に事前に目を通し、新出語彙・イディオムの意味・用法を予習し、事前に提示される教科書の設問に答えておく。</li> <li>・テキストの本文の内容、語彙・イディオムを中心に復習をする。</li> <li>・授業の内容を踏まえ、教科書の読み物について自分の考えをまとめておく。</li> <li>・なお、上記の予習・復習に加えて、自律学習(セルフスタディー)も各自実施する(セルフスタディーの時間は予習時間に含めない)。</li> </ul>				
教科書	"World English 3 (Third edition)" Christien Lee (Cengage Learning)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	40%	40%	0%	20%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性はある。</li> </ul>				

(教養英語Ⅱ)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	英語基礎Ⅱ				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では「英語基礎Ⅰ」に引き続き、英語の基礎力を身につけることに主眼を置く。春学期で学習した短文単位の英文解釈の演習問題からパラグラフ単位の英文解釈の演習問題を行うことで、より高度な英文構造の分析と理解の向上に努める。さらに、ビジネスシーンを想定した英文の概要をスピーディーにとらえる演習問題を行うことで、英文の素早い処理と正確な把握に必要な基礎力を培う。また、春学期同様、文法・語彙・音声の教材を用いながら、総合的な英語運用能力修得のための基礎となる語彙力、基礎文法力・構文力、読解力、聴解力のさらなる向上を目指す。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 パラグラフ単位の英文を読んでいくため前後の英文の関係性にも注意を払いながら、一文一文をを正確に解釈していく訓練を積むことができる。</li> <li>2 演習問題に採用する英文は多彩なジャンルから取り上げているため、実用的な英文に慣れると同時に教養的な知識も身につけることができる。</li> <li>3 音声副教材から、英語における音変化(子音の結合、音の短縮・同化など)の知識を得ることができる。</li> <li>4 語彙副教材から、理工系英単語・熟語1000語を習得できる。</li> <li>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	期末テスト、速読読解小テスト、リスニングテスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	課題提出(多読・リスニング・語彙・プリント)、		
	論理性	10%	演習問題(英文解釈・英文速読処理)		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
3.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
4.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
5.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
6.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
7.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
8.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
9.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				

10.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
11.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
12.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
13.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
14.	演習問題、多読シート・リスニング・語彙・プリント課題提出、速読・リスニング小テスト				
15.	まとめ				
授業外学修について	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 リスニング・語彙・プリント(課題提出) 2 多読の課題(1週間に2500語以上読んで多読シートを提出)				
教科書	1 船田秀佳『音のルールから学ぶ大学生のリスニングドリル』(朝日出版社) 2 佐藤誠司『理工系英単語・熟語1000』(南雲堂)				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50%%	10%%	30%%	0%%	10%%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関してはガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(英語基礎Ⅱ)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	アメリカ事情 I				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class.</p> <p>Class content will consist a number of English "Modules" concerning a variety of topics.</p> <p>ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	6%	定期試験、小テスト(クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	20%	ワークシート、小テスト(クイズ)		
	協調性	20%	ワークシート		
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	Course Introduction				
2.	Reading Passage				
3.	Reading Passage & Quiz				
4.	Reading Passage & Quiz				
5.	Reading Passage & Quiz				
6.	Reading Passage & Quiz				
7.	Reading Passage & Quiz				
8.	Listening & Video				
9.	Reading Passage & Quiz				
10.	Listening & Video				
11.	Reading Passage & Quiz				
12.	Listening & Video				
13.	Reading Passage & Quiz				

14.	Listening Quiz				
15.	Reading Quiz				
授業外学修について	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。 特に読書のプリントを読んでください。				
教科書	Handouts				
参考文献	使用しない				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60%	40%	0%	0%	0%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(アメリカ事情 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	TOEIC I				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>ここでは、TOEICのスコア獲得600点を目標に試験対策に特化した授業を展開していく。具体的には、毎時間実践形式に近い形で練習問題を解いていく。特に、リーディング問題は、制限時間内に全問題を解くことはかなり難しいので、パートごとに時間を設定して問題を解く練習を重ねることで、時間内に全問題がとけるような身体感覚を養っていく。</p>				
授業科目の到達目標	<p>1 授業では、特にリーディングセクションの3つのパートのそれぞれに一定の時間を設定して、その時間内に各問題を解く実践的な練習を重ねることで、制限時間内に全問題が解けるような身体感覚を身につけることができる。</p> <p>2 副教材のTOEICテキストにはすべてのUnitにリスニング・リーディングの各パートの問題がコンパクトに取り込まれているので、それらの問題を解くことでTOEICの問題形式に慣れることができる。</p> <p>3 また上記のテキストには、各パートを解く上で知っておくべき重要項目を「解法のコツ」としてまとめていて、それらを参照することで効率的な学習方法や問題を解くテクニックを身につけることができる。</p> <p>4 さらに上記のテキストは、Web学習システムの「リングポルタ」に対応しているので、パソコンなどを利用したモバイルラーニングによって様々な問題を解くことができ、基礎力のみならず応用力も身につけることができる。</p> <p>5 多読によって、英語の物語や説明文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</p>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	定期試験、実戦形式問題(授業内)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	課題(テキストの演習問題、多読)、実戦形式問題の復習		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方や評価の仕方など)				
2.	Warming up: TOEIC Bridgeの問題を解く、課題提出				
3.	TOEICの形式と対策、課題提出				
4.	Listening Test(全パート)、課題提出				
5.	Reading ( Part 5 & 6)、課題提出				
6.	Reading ( Part 7)、課題提出				
7.	Reading (Part 5 & 6)、課題提出				
8.	Reading ( Part 7)、課題提出				
9.	Listening (全パート)、課題提出				

10.	Reading ( Part 5 & 6)、課題提出				
11.	Reading ( Part 7)、課題提出				
12.	Reading ( Part 5 & 6)、課題提出				
13.	Reading ( Part 7)、課題提出				
14.	テスト:Listening Part				
15.	テスト:Reading Part				
授業外学修について	授業外の学習として、以下の項目に4時間以上は取り組むこと。 1 授業内で行う実践問題の復習 2 テキストの演習問題 3 多読(1週間に3000語以上)				
教科書	角山照彦他『A Communicative Approach to the TOEIC L&R Test Book 2: Intermediate』(成美堂)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60%	0%	30%	0%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価(検定試験の性格上通常の評価とは異なる)や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</li> <li>・授業は、「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承下さい。変更が生じる場合は、ガイダンス時、または授業中に連絡する。</li> </ul>				

(TOEIC I)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	英語と文化 I				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業では、さまざまなテーマ(都市学、言語学など)の動画やReading passageを通じて、語彙学習や英語のパラグラフの構造を学習する。動画やReadingの教材をもとに自分の考えをパラグラフにまとめ、クラスメイトとのPeer reviewを通じて、英語のWritingやCritical thinkingに慣れる。また、reading / writingに加え、英語のspeakingに必要な発音の練習も授業で取り入れ、speakingの練習も行う。したがって、本授業は発音、speaking / writingを中心に講義・演習を行い、毎回の課題を重ねることによって、英語のスキルの定着を目指す。なお、一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語にはない英語の音やリズム、発音に注意しながら、発話することができる。</li> <li>2. 英語のパラグラフの構造を理解し、ロジカルなパラグラフを構成することができる。</li> <li>3. 読んだもの、授業内でディスカッションしたことをもとにパラグラフを書くことができる。</li> <li>4. ライティングの演習を重ね、ピアが書いたライティングをロジカルに読んで、コメントをすることができる。</li> <li>5. 他者からもらったフィードバックをもとにパラグラフを書くことができる。</li> <li>6. 与えられたテーマに沿って、ロジカルに英語でパラグラフを書くことができる(300語程度)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	その他テスト・課題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題・取組状況等		
	論理性	20%	課題・取組状況等		
	国際性	10%	課題・取組状況等		
	協調性	10%	課題・取組状況等		
	創造力	%			
	責任感	10%	課題・取組状況等		
授業の展開					
1.	授業について、Unit 1 (都市学)を使って授業の進め方と教科書について説明				
2.	Unit 1 Understanding main ideas and details. パラグラフについて。				
3.	Unit 2(言語学)Understanding charts. Topic sentenceについて。				
4.	Unit 2の続きと動画視聴。実際にライティングをして、peer review。				
5.	Unit 3(メディア学)Making inferences. Supporting ideas and detailsについて。				
6.	Unit 3の続きとPeer review、動画視聴。				
7.	Unit 4(アート・サイエンス)Identifying suporpose and audience. 図表について。				
8.	Unit 4の続きとPeer review、動画視聴。				
9.	Unit 5(旅行) Understanding pronoun references. Concluding sentencesについて。				
10.	Unit 5の続きとPeer review(時間があれば動画視聴)。				

11.	Unit 6(脳科学)Scanning for specific information。パラグラフからエッセイライティングへ。				
12.	Unit 6の続きとエッセイライティングの実践。				
13.	Unit 7(心理学)Annotating a text.ライティングの練習とPeer review。				
14.	Unit 7の続きと動画視聴。				
15.	まとめとIntro/concluding paragraphについて。				
授業外学修について	本授業は、予習(120分程度)復習(90分程度)が必須である。2回目以降は、ほぼ毎回確認クイズと課題がある。また、授業内で各学生が書いたライティングをPeer reviewするため、授業時間内にライティングをすることや事前にライティングをしてもらうことが求められる。また各授業の冒頭15分程度で発音の練習をするため、事前に発音の練習をすることが求められる。				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Reflect: Reading &amp; Writing (Level 3) Laurie Blass, Christien Lee, Gary Pathare, Kristin D. Sherman, Jessica Williams, Mari Vargo (Cengage Learning)</li> <li>- A short course in American &amp; British English Pronunciation 5分間英語発音 Masayuki Sekine (南雲堂)</li> </ul>				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	40%	40%	0%	20%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には不合格となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。また、他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性はある。</li> <li>・本授業は登録者が5名以下の場合には、開講されない。</li> </ul>				

(英語と文化 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	フランス語				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	30
授 業 担 当 者	高野 真理子(非常勤講師)		単位認定責任者	高野 真理子	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>本授業では、話す、聞く、書く、読むという四技能をバランス良く学ぶことによって、フランス語の総合的な入門学習を目指します。日常生活や旅行における平易な表現から始めてフランス語の基礎力を養い、発音・会話練習や練習問題を通じてそれらを応用する力を伸ばしていきます。</p> <p>この点で、フランス語の実用能力を客観的に証明する実用フランス語検定試験(仏検)5級程度の語学力を目指せる学習といえます。</p> <p>また、言語を学ぶことは、それを使う人と国を知ることでもあります。この授業では芸術やグルメなど、フランスの文化や社会、歴史も紹介していきます。それらに親しむことによってヨーロッパへの理解を深め、広い視野を養うことも大切と言えるでしょう。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語の音と綴り字の関係を理解することで、単語や短い文章を正確に発音することができる。</li> <li>2. 文法を理解し、単語や動詞の活用を暗記することで、挨拶、簡単な自己紹介や趣味についてフランス語で表現・作文することができる。</li> <li>3. 短いフランス語の文章を聞いて意味を理解し、また相手に質問することができる。</li> <li>4. 総合的な学習の成果として、実用フランス語検定5級程度の4技能(聞く、話す、読む、書く)を習得できる。</li> <li>5. フランス語の音の美しさ、文法の面白さ、ヨーロッパの豊かな文化に触れ、理解することによって、広い視野を養い、独自の意見を持って議論に参加できる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	口頭発表、定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10%	授業態度、口頭発表、課題		
	論理性	%			
	国際性	10%	口頭発表、定期試験		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	10%	口頭発表、定期試験		
授業の展開					
1.	ガイダンス:授業の進め方、評価についてなど 第1課 出合い(1):アルファベット、挨拶、être動詞				
2.	第1課 出合い(1):第一群規則動詞、名詞の性・数、疑問文型				
3.	第2課 出合い(2):出身地、職業の表現、前置詞 en, à, àと定冠詞の縮約				
4.	第2課 出合い(2):所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形、数字				
5.	第3課 紹介する:否定文、単純倒置形・複合倒置形				
6.	第3課 紹介する:前置詞deと定冠詞の縮約				

7.	第4課 専攻と余暇:科目・趣味の語彙、部分冠詞				
8.	第4課 専攻と余暇:好き嫌いの表現、中性代名詞en,y				
9.	第5課 家族:家族の語彙、指示表現、否定のde、形容詞				
10.	第5課 家族:形容詞の女性形、男性第2形を持つ形容詞、口頭発表①				
11.	第6課 持ち物:持ち物の語彙、物の名前を尋ねる、口頭発表②				
12.	第6課 持ち物:所有を表す表現、口頭発表③				
13.	第10課 食品:朝食のメニュー、好きな食べ物、口頭発表④				
14.	第10課 食品:カフェでの注文、口頭発表⑤				
15.	まとめ:口頭発表(予備日)、試験対策				
授業外学修について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書、配布するプリント、課題等で必ず予習・復習をすること。その際には、各回とも前回の授業の学習内容、とりわけ動詞の活用や重要単語は暗記して授業に臨むこと。テキストを読み、初出の単語は調べ、質問事項をまとめておくなど、言語学習は毎日少しでもコツコツ行うのが望ましい。</li> <li>・教科書付属の音声ダウンロードし、各自発音の確認・練習を行うことが望ましい。</li> <li>・出される課題もしくは教科書付属のワークブックには必ず取り組み、課題は提出期限までに提出すること(提出形式は、授業形態に応じてメールやポータルで行う)。やむを得ない場合で提出が遅れた場合も極力提出することが望ましい。採点結果が極めて不十分な場合には、再提出を求める場合があるので注意すること。</li> <li>・テーマや各課の区切りで小テスト(動詞の活用など)を行うことがある。事前に通知するのでしっかり準備をすること。</li> </ul>				
教科書	高橋百代 他著『場面で学ぶフランス語 I (三訂版)』、三修社、2019 補助のプリントも配布予定				
参考文献	仏和辞典を一冊購入することを推奨する。 辞典についての詳細は、ガイダンス時に紹介する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	○	○
成績評価の割合	50%	0%	15%	20%	15%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への積極的な参加態度、小テスト、課題の提出、口頭発表、定期試験などにより総合的に評価する。</li> <li>・出席は非常に重要。欠席が規定時間数の3分の1を越えれば期末試験の受験資格を失う。毎回出席することに加え、積極的に声をだし発音すること、会話練習や口頭発表、宿題などに主体的に取り組む姿勢を評価する。</li> <li>・遅刻は厳禁。3回の遅刻で1回の欠席にカウントする。</li> <li>・定期試験は、教科書、ワークブック、課題プリントなどからも出題される。課題や小テスト、ワークブックは取り組み後、ノートにまとめるなどして復習することが望ましい。再試験は行わないので注意すること。</li> <li>・課題は翌週の授業までに採点し返却する。解説はポータルへの掲載、プリント配布、あるいは授業内で全員に共有など、必要に応じて行う予定。</li> </ul>				

(フランス語)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	中国語1				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	30
授 業 担 当 者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>中国は世界の人口の五分之一を占め、世界第二の経済大国に成長したことに伴い、日中間の科学技術、経済、文化などさまざまな分野で交流が深まりつつある。その交流に加わるために中国語の修得が不可欠で、その文化を理解するのも大事である。本講義では、中国語の基本として、発音、文字、語彙、構文、会話について、日本語と比べながら、わかりやすく説明し、文法演習を重ね、実用的会話の練習も繰り返すうちに、自然に中国語会話力、作文力をマスターする。また、授業の内容を交えて、映像資料で中国の文化、最新情報も紹介する。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語の表音文字が発音できる。</li> <li>2. 中国語の基本文法をマスターすることができる。</li> <li>3. 日常的会話力を習得することができる。</li> <li>4. 簡単な作文能力を習得することができる。</li> <li>5. 語学の勉強に伴って、最新中国事情を知り、文化的理解を深める。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	期末試験、小テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	10%	授業参加		
	論理性	%			
	国際性	20%	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス 中国語概論				
2.	中国語の発音入門				
3.	中国語の発音入門				
4.	第一課 人称代名詞 あなたの名前は何といますか。				
5.	第二課 指示代名詞 これは何ですか。				
6.	第三課 動詞述語文 あなたは何を食べますか。				
7.	第四課 形容詞述語文 最近はどうですか。				
8.	第五課 名詞述語文 全部でおいくらですか。				
9.	第六課 存在を表す「有」と 所在を表す「在」 病院はどこですか。				
10.	第七課 前置詞 どこで会いましょうか。				
11.	第八課 完了、経験の表現 どのくらい行っていたのですか。				
12.	第九課 助動詞 何を見ているんですか。				

13.	第十課 様態補語 趣味は何ですか。				
14.	第十一課 結果補語 航空券はもう予約しましたか。				
15.	第十二課 方向補語 道中ご無事に				
授業外学修について	1課ごとに宿題を配布、チェックする。				
教科書	云肖梅 森若裕子著 『校园故事 キャンパス物語』 松柏社				
参考文献	適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	○	×	○
成績評価の割合	50%	30%	5%	0%	15%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	定期試験は持ち込み不可、いままでの合格率は90-95%。				

(中国語1)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	アメリカ事情Ⅱ				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>THIS IS AN ALL ENGLISH CLASS. Students are expected to speak to me, and to each other, ONLY in English during class.</p> <p>Class content will consist a number of advanced English “Modules” concerning a variety of topics.</p> <p>ALL students will be expected to SPEAK in English, READ English, WATCH video in English, LISTEN to English music, ROLE-PLAY in English, and SING in English!!</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be able to use new vocabulary.</li> <li>2. Students will be able to read English passages.</li> <li>3. Students will be able to understand spoken English.</li> <li>4. Students will be able to understand US culture.</li> <li>5. Students will be able to discuss a variety of topics.</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	定期試験、小テスト(クイズ)		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	20%	ワークシート、小テスト(クイズ)		
	協調性	20%	ワークシート		
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	Course Introduction				
2.	Interactive Game Introduction				
3.	Reading Passage				
4.	Interactive Game				
5.	Reading Passage				
6.	Interactive Game				
7.	Reading Quiz				
8.	Listening & Video				
9.	Reading Passage				
10.	Listening & Video				
11.	Reading Passage				
12.	Listening & Video				

13.	Reading Passage				
14.	Listening Quiz				
15.	Reading Quiz				
授業外学修について	Students will receive various handouts that should be perused before lecture. Particularly the reading passages should be read before coming to lecture. 学生がいろいろなプリントをもらいます。このプリントを講座前にみてください。特に読書のプリントを読んでください。				
教科書	Handouts				
参考文献	使用しない				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	×	×
成績評価の割合	60%	40%	0%	0%	0%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(アメリカ事情Ⅱ)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	TOEIC II				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>本授業はTOEICテスト対策のみに特化した授業ではなく、TOEICテスト Speaking &amp; Writing 用の教科書を使用し、英語の4技能のスキルと語彙力の向上を目的とする。さらに、授業では、実際のTOEICテスト Speaking &amp; Writingに類似した形式の設問を用いて、リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの練習や演習を取り入れる。語彙に関しては、ほぼ毎回授業の冒頭でクイズを実施するため、受講生が自主的に勉強することが求められる。また、授業では教科書内にあるスピーキングやライティングの設問の回答を受講生同士がレビューし合い、主体的に学修することを目指す。また、タイミングが合えば、海外の大学と交流をし、実践的に英語でコミュニケーションをとる。また、中学・高校の授業では扱われる機会が少ない発音の練習も、授業では導入し、発音の強化を目指す。なお、本授業は登録者数が5名以下の場合には開講されない。一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語らしい発音、リズム、テンポで発話することができる。</li> <li>2. 写真や絵を見て、それらを自分のことばで正確に説明することができる(スピーキングとライティング)。</li> <li>3. 身近な話題についての質問に答えたり、会話をすることができる(スピーキング)。</li> <li>4. 未学習の語彙があっても、文脈などで意味を補足することができる(スピーキングとライティング)。</li> <li>5. あるテーマについて、自分の意見をロジカルに述べるることができる(スピーキングとライティング)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	定期試験・その他テスト・課題		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題		
	論理性	10%	課題・ピアレビュー		
	国際性	10%	課題		
	協調性	10%	ピアレビュー		
	創造力	10%	課題		
責任感	10%	課題・ピアレビュー・取組状況等			
授業の展開					
1.	授業オリエンテーションとUnit 1 音読(日常編)、聞き手にわかりやすい発話の練習				
2.	Unit 1の続きとUnit 2 写真描写(日常編)、具体的で伝わりやすい描写の練習				
3.	Unit 3 応答、身近な話題に関する質問に対応する練習				
4.	Unit 4提示された情報にも基づく応答(日常編)、資料を見てそれに関する質問に対応する練習				
5.	Unit 5 解決策を提案する(日常編)、提示された問題を素早く理解し対応する練習				
6.	Unit 6 意見を述べる(日常編)、ロジカルに意見を述べる練習				

7.	Unit 6の続きとSpeaking(日常編)のまとめ				
8.	Unit 7 写真描写(日常編)、与えられた語句を使って正しい文章を瞬時に書く練習				
9.	Unit 8 Eメール(日常編) 英文のメールに書かれた内容を理解し、一貫した論理的構成で適切な返信を書く練習				
10.	Unit 9 意見を記述する(日常編)自分の意見を明確に、ロジカルに書く				
11.	Unit 9の続き				
12.	ビジネス編 Unit 1 音読 意味のまとまりを意識し、わかりやすい発音を練習				
13.	Unit 2 写真描写 適切な語句を使い、具体的に描写をする練習				
14.	Unit 3 応答、意見や説明が求められた場合にすぐに反応し、適切な返答をする練習				
15.	まとめと確認テスト				
授業外学修について	本授業では、予習・復習は必須であり、2回目以降は、ほぼ毎回課題と確認クイズを実施する。そのため、授業で扱った内容は、必ず復習しておくこと(復習と課題90分程度)。また、授業へ参加する前に、授業で扱うUnitに目を通し、語彙を必ず確認すること(予習と課題90分程度)				
教科書	- THE ESSENTIAL GUIDE TO THE TOEIC S&W TESTS/TOEIC® はじめてのS&W総合対策入門 松岡昇、傍島和夫(松柏社) - TOEIC Test Listening 650片野田浩子、シアン・ウォング(南雲堂)				
参考文献					
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	x	○	○	x	○
成績評価の割合	0%	40%	40%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数<math>\frac{2}{3}</math>未満の場合には不合格となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは、「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> <li>・期日を過ぎた課題・HWIは、評価対象外となる。また、本授業では、追試・再試は実施しない。ただし、何か特別な理由がある場合は、必ず連絡をすること。</li> <li>・本授業は登録者数が5名以下の場合には開講されない。</li> </ul>				

(TOEIC II)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	英語と文化Ⅱ				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、世界の文化を歴史的にとらえ、思想や芸術の幅広い教養を身につけると同時に異質なものの、多様なものを理解し、受容することができるようになることを目指す。具体的には、ゴシック文学の古典である「ドラキュラ」と今やアメリカ都市伝説の古典と化した「消えたヒッチハイカー」(大学中級レベルから上級レベル)を精読しながら、両作品に隠された様々な問題を歴史的・社会的・文化的文脈から批判的に読み解いていく視点を養っていく。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国の芸術文化を理解し、多様性を認める寛容力を持つことができる。</li> <li>2. 授業中に取り上げる英文を精読することで批判的に分析する思考力を身につけることができる。</li> <li>3. 「ドラキュラ」に関連する資料を通して「ドラキュラ」の歴史的・社会的・文化的背景を知ることができる。</li> <li>4. 「消えたヒッチハイカー」に所収された3つのアメリカの都市伝説を読むことでそこに描かれた世界がいわばその社会に共通した不安や恐怖を照らし出していることに気づくと同時にそれらが現代アメリカ人の意識下に横たわる暗闇を映し出す鏡として働いていることを認識できる。</li> <li>5. 多読によって英語の物語や説明文を和訳せずに速く読むことができる(直読直解)。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	期末テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	30%	課題提出(多読・演習問題・レポート)、テキストの予習(日本語訳作成)		
	論理性	%			
	国際性	10%	外国文化の理解・受容		
	協調性	%			
	創造力	%			
責任感	%				
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	ドラキュラ 1章「ハーカー、トランシルヴァニアへ」 2章「ドラキュラ城に囚われて」、多読提出				
3.	ドラキュラ 3章「伯爵の出立」 4章「死者たちの船」、多読・演習問題提出				
4.	ドラキュラ 5章「ルーシー、侵入口となる」 6章「ルーシー、戦場となる」、多読・演習問題提出				
5.	ドラキュラ 7章「不死者ルーシー」 8章「ヴァンヘルシングの分析と戦略」、多読・演習問題提出				

6.	ドラキュラ 9章「ミナの危機」 10章「ミナ、探知器となる」、多読・演習問題提出				
7.	ドラキュラ 11章「再び、トランシルヴァニアへ」 12章「終焉」、多読・演習問題提出				
8.	レポート作成のための映像視聴「ドラキュラ」(1931)				
9.	The Death Cat ①、多読・演習問題・レポート提出				
10.	The Death Cat ②、多読提出				
11.	The Boyfriend's Death ①、多読提出				
12.	The Boyfriend's Death ②、多読提出				
13.	The Vanishing Hitchhiker ①、多読提出				
14.	The Vanishing Hitchhiker ②、多読提出				
15.	まとめ				
授業外学修について	<p>授業外学習は、以下の事項に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト・プリントの予習(日本語訳作成)</li> <li>2. テキストの演習問題の課題</li> <li>3. 多読の課題(週に3000語以上)</li> <li>4. レポート作成</li> </ol>				
教科書	細川裕子『ドラキュラ リトルド版』(英宝社) (「消えたヒッチハイカー」等の英文についてはプリントで配布。)				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60%	0%	10%	0%	30%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<p>・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時において詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</p> <p>・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更があれば、ガイダンス時または授業中に連絡する。</p>				

(英語と文化Ⅱ)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	ドイツ語				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	30
授 業 担 当 者	安高 誠吾(非常勤講師)		単位認定責任者	安高 誠吾	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	ヨーロッパの言語の文法を構成している三本柱は、動詞と名詞(代名詞)と語順に関する文法で、中でも動詞の文法(人称変化と動詞が置かれる位置)が最も重要です。授業では動詞の学習に特に力点を置き、不定詞句から指示された文を作る練習をします。英語に比べてドイツ語の文法変化は複雑ですが、細部にとらわれずに、大きくドイツ語という言語の構造を理解して下さい。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各課の基本的な会話を覚え、それを応用して基礎的な文章表現ができる。</li> <li>2. 単語や文章を正確に発音ができる。</li> <li>3. 基礎単語500語を覚える。</li> <li>4. 値段や時刻、年月日など数の表現ができる。</li> <li>5. ドイツという国の社会や文化を知る。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	70%	中間試験と定期試験によって評価する。		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	宿題提出、予習や授業での発表等の取組姿勢で評価する。		
	論理性	%			
	国際性	10%	教材を通してドイツの社会を知る。		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(ドイツ語はどんな言葉か)、つづりと発音① (Lektion 0) * 末尾の(Lektion ○)は教科書の課を表す。				
2.	つづりと発音②、発音練習(数の言い方、挨拶)(Lektion 0)				
3.	人称代名詞と動詞の現在人称変化(規則変化動詞、sein とhaben動詞の変化、定動詞とその位置)(Lektion 1)				
4.	名詞の性と格(不定冠詞と定冠詞と格変化)(Lektion 2)				
5.	人称代名詞とその格変化(Lektion 2)				
6.	不定冠詞類と定冠詞類の格変化その1(Lektion 3)				
7.	不定冠詞類と定冠詞類の格変化その2、否定文(Lektion 3)				
8.	現在人称変化③(不規則変化動詞)、4つのタイプの動詞の人称変化(Lektion 4)				
9.	前置詞(Lektion 4)				
10.	複合動詞(分離動詞と非分離動詞)、(Lektion 5)				
11.	話法の助動詞、接続詞 (Lektion 5)				
12.	従属接続詞 (Lektion 5)				
13.	過去表現1(過去形)、過去人称変化(Lektion 6)				

14.	過去表現Ⅱ（現在完了形）(Lektion 6)				
15.	中級文法への展開(関係文、命令形、接続法など)				
授業外学修について	適時宿題を出すので提出すること。語学の学習には復習が効果的であるので、出来るだけその日の内に復習してもらいたい。				
教科書	書名:『じゃあ、またあした! ——コンパクト版』、山本 淳著、同学社				
参考文献	根本道也 他編『アポロン独和辞典』、同学社				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	70%	0%	10%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開講中に試験は2度行う。</li> <li>・中間テスト: 15回目の授業が終了した段階で行う。(試験範囲は1～15回目の授業で学習した事項)</li> <li>・定期試験: 30回目の授業が終了した段階で行う。(試験範囲は16～30回目の授業で学習した事項)</li> <li>・再試験: 中間テスト、および定期試験で合格点に達しなかった者に対して実施する。</li> <li>○ 適時小テストを行うが、理解度を自己チェックするもので、成績評価には加えない。</li> <li>○ 授業開始時に席を決めるので、毎回その席に座ること。</li> </ul>				

(ドイツ語)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	中国語2				
配 当 学 年	2年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	1 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく中国語1(初級レベル)を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語1で習った中国語基本文法をベースに一歩進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35%	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50%	レポート		
	論理性	%			
	国際性	15%	授業参加		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第一課 中国人の朝食 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第二課 タクシーに乗る 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第三課 高価な映画券 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	まとめとテスト				
9.	第四課 AA製とAB製 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第五課 病気 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				
13.	第六課 ネットショッピング 重要語句 文法要点				

14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				
授業外学修について	授業中に小テストを行うため、復習をしておくこと。				
教科書	内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』金星堂				
参考文献	適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	20%	50%	0%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語2)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	中国語3				
配 当 学 年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	1 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	云 肖梅(非常勤講師)		単位認定責任者	云 肖梅	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	<p>「せっかく中国語1(初級レベル)を突破したから、もっと通用するまで勉強したい」と考えている人のために 開設する中国語中級クラスである。講義では中国の最新情報を内容とするテキストを使用し、読解を中心に文法、重要語句を文例で分かりやすく説明する上、朗読、翻訳の練習を行い、凄まじく変貌する中国事情の映像、資料などを楽しみながら中国語の実力をアップする。講義の後半期に中国語検定試験についても紹介し、模擬テストを経験してみる。</p> <p>中国語3の講義内容は中国語2の継続で、同一の教科書を使う。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国語1で習った中国語基本文法をベースに一步進んで重要語句などが習得できる。</li> <li>2. 中国語の問題の解答能力を高める。</li> <li>3. 辞書を使って一般の中国語の文章が読める。</li> <li>4. 中国語の勉強に伴って最新の中国情報が取得できる。</li> <li>5. 今後独学でも中国語の上級のレベルアップすることができるような基礎が築ける。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	35%	授業参加、テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	50%	レポート		
	論理性	%			
	国際性	15%	授業参加、レポート		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス ピンインと基本文型の復習				
2.	第七課 剩男剩女 重要語句 文法要点				
3.	短文読解 練習問題				
4.	第八課 大学生生活 重要語句 文法要点				
5.	短文読解 練習問題				
6.	第九課 感謝を表す 重要語句 文法要点				
7.	短文読解 練習問題				
8.	中国語検定模擬試験				
9.	第十課 若者の就職意識 重要語句 文法要点				
10.	短文読解 練習問題				
11.	第十一課 月光族 重要語句 文法要点				
12.	短文読解 練習問題				

13.	第十二課 海外での奇遇 重要語句 文法要点				
14.	短文読解 練習問題				
15.	翻訳レポート				
授業外学修について	授業中にテストを行うため、復習をしておくこと。				
教科書	内田慶市ほか『中国語への道【準中級編】』金星堂				
参考文献	授業中適宜指示する。				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	20%	50%	0%	30%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	学期末に翻訳レポートを提出する。				

(中国語3)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	科学技術英語 I				
配 当 学 年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. On the other hand, technical reports also contain many unfamiliar phrases, idioms and vocabulary. This lecture will use example texts from various technical and scientific fields, such as natural sciences, engineering, and informatics to teach the peculiar structure and function of a technical report</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The students will be able to read technical reports.</li> <li>2. Students will learn a list of useful vocabulary.</li> <li>3. Students will learn useful idiomatic phrases that are used in technical reports.</li> <li>4. Students will learn the grammatical style of a technical report.</li> <li>5. The students will be able to understand technical reports.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	レポート、プレゼンテーション		
	専門知識	30%	レポート、プレゼンテーション		
	倫理観	%			
	主体性	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	論理性	%			
	国際性	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況		
	協調性	5%	取組状況		
	創造力	5%	レポート、プレゼンテーション		
責任感	10%	レポート、プレゼンテーション、取組状況			
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Purpose and structure of a technical report				
3.	Grammatical rules that apply to a technical report I				
4.	Grammatical rules that apply to a technical report II				
5.	Idioms, phrases and vocabulary often used in a technical report.				
6.	Greek and Latin roots of vocabulary				
7.	Application of those idioms, phrases and vocabulary				
8.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English I				
9.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English II				
10.	Translation of a technical report from English to Japanese I				
11.	Translation of a technical report from English to Japanese II				
12.	Translation of a technical report from Japanese to English I				
13.	Translation of a technical report from Japanese to English II				

14.	Translation of a technical report from Japanese to English III				
15.	Summary				
授業外学修について	Memorizing vocabulary. Training of grammar rules.				
教科書	ポータルからダウンロードできるプリント Olaf Karthausら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	x	○	○	○
成績評価の割合	0%	0%	40%	40%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 翻訳課題 「取り組み状況」 授業中のグループワークとディスカッション				

(科学技術英語 I)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	科学技術英語Ⅱ				
配 当 学 年	3年	必修・選択	選択必修	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Olaf Karthaus		単位認定責任者	Olaf Karthaus	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	Technical English is different from colloquial English. Technical reports have a strict structure and follow some simple rules. Based on the lecture in spring, this lecture will use this knowledge and the students will write a short technical report about an experiment the students conducted in class.				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The students will be able to observe experiments in class.</li> <li>2. The students will learn a list of vocabulary concerning these experiments.</li> <li>3. Students will be able to use useful phrases and idioms for a technical report.</li> <li>4. The students will be able to write a 200 word short technical report.</li> <li>5. Students will be able to listen to the presentation of a technical report.</li> </ol>				
学修成果評価項目 (%) および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	30%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	専門知識	30%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
	倫理観	%			
	主体性	20%	レポート、プレゼンテーション		
	論理性	%			
	国際性	20%	レポート、プレゼンテーション		
	協調性	%	取り組み状況		
	創造力	%			
	責任感	%	レポート、プレゼンテーション、取り組み状況		
授業の展開					
1.	Introduction to the topic				
2.	Structure and grammatical rules of a technical report				
3.	The use of AI (ChatGPT etc) for learning English				
4.	Experiment #1				
5.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				
6.	Writing a 200 word report I				
7.	Writing a 200 word report II				
8.	Presentation of the report I				
9.	Presentation of this report II				
10.	Experiment #2				
11.	Idioms, phrases and vocabulary concerning this experiment				
12.	Writing a 200 word report I				
13.	Writing a 200 word report II				
14.	Presentation of the report I				

15.	Presentation of this report II				
授業外学修について	復習について: 授業のノートを整理しながら理解度を確認し、理解できなかったところは次回の授業で質問できるようまとめておく。				
教科書	Olaf Karthausら, “オラフ教授式 理工系のたのしい英語プレゼン術77”, 講談社, ISBN 978-4065196090, 2640円				
参考文献	Richard Cowellら, “技術英語の基本”, コロナ社, ISBN 4-339-07780-1, 2400円				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	x	x	○	○	○
成績評価の割合	0%	0%	50%	40%	10%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	「レポート」 宿題のレポート 「プレゼンテーション」 宿題の口頭プレゼンテーション 「取り組み状況」 授業中のディスカッション				

(科学技術英語Ⅱ)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	英語コミュニケーション				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	Randy L.Evans		単位認定責任者	EVANS RANDY LYNN	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>Students will learn basic vocabulary and phrases concerning information technology. Much time will be spent writing, preparing and delivering an English presentation. All students will be required to use some kind of presentation software, such as Apple Keynote or Microsoft PowerPoint. This class is held in English.</p> <p>基本的なITの単語と表現を学ぶ。多くの時間は学生が英語の発表を書いて発表する。この発表でプレゼンテーション・ソフト(例えば、AppleのKeynoteやMicrosoftのPowerPointなど)の使用が求められます。全て英語で行います。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IT関係の英単語を分ることができる。</li> <li>2. 英語で指示聞いてタスクをすることができる。</li> <li>3. プレゼンテーションを英語で書くことができる。</li> <li>4. 英語でプレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーションを作成することができる。</li> <li>5. 効果的な英語プレゼンテーションを行うことができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	50%	定期試験		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	50%	プレゼンテーション		
責任感	%				
授業の展開					
1.	Introduction イン트로ダクション				
2.	Mobile Technologies モバイルテクノロジー				
3.	Computational Thinking 計算論的思考				
4.	Web Literacy ウェブリテラシー				
5.	Digital Media デジタルメディア				
6.	Word Processing ワードプロセッシング				
7.	Social Media ソーシャルメディア				
8.	Databases & Spreadsheets データベースとスプレッドシート				
9.	Graphing グラフの作り方				
10.	Using Presentation Software プレゼンテーションソフトの使い方				
11.	Writing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの作成				

12.	Designing the Final Presentation 最終プレゼンテーションの設計				
13.	Preparing for the Final Presentations 最終プレゼンテーションの準備				
14.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
15.	Final Presentations 最終プレゼンテーション				
授業外学修について	<p>We will use some class time for making the presentations, but students will largely complete the presentations outside class. Students should also use their own time to review the vocabulary, as well as other small assignments.</p> <p>プレゼンテーション作成は授業内でも行いますが、殆ど授業外に作成する必要があります。さらに、授業外に単語の復習やその他の宿題に取り組む必要があります。</p>				
教科書	適宜プリントを配付・使用する				
参考文献	なし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	○	×	○	×
成績評価の割合	40%	20%	0%	40%	0%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(英語コミュニケーション)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	実用英語				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	磯部 靖世		単位認定責任者	磯部 靖世	
実務経験の有無					
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	<p>大学入学までに勉強した英文法を会話などに実践的に使い、定着することを目指し、授業内の活動を通じて、自分が興味のあることを英語で話す、書く、聞く、読む練習を行う。理系では英語が共通語として使われることが多く、様々な国の人と英語でコミュニケーションをとることを見据えて、授業では様々な国の人と話す英語を教材として扱う。授業の課題として、エッセイ、シャドーイング、スピーキングがあり、これらを通して4技能(聞く・話す・書く・読む)を強化する(タイミングによっては、海外の大学とのオンライン交流がある)。なお、本クラスは英語でのペアまたはグループを授業で実施する。また、本授業では、授業の一環としてセルフスタディー(自律学習)を実施する(詳細は初回授業で説明)。セルフスタディーは各学生が興味があることを英語で学習するために、学習計画・学習目的をたて、学習を進めることにより、自律学習能力を養うことを目的とする活動である。なお、一部の授業はオンラインやオンデマンドで実施されることもある。</p>				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで学習してきた文法を実践的に使うことができる。</li> <li>2. さまざまな話題(例えば旅行、休暇、買い物、セルフスタディーなど)について、自分の意見を英語で述べることができる(口頭で1分程度、エッセイで130語程度)。</li> <li>3. 英語のパラグラフの書き方を理解し、理論的に英語のパラグラフを書くことができる。</li> <li>4. カタカナ英語ではなく、英語の発音(語末の母音を落とすなど)を意識することができる。</li> <li>5. セルフスタディー(自律学習)を通して、自律学習能力を身につけることができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20%	その他テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	40%	その他テスト		
	論理性	20%	課題・レポート等		
	国際性	10%	課題・レポート等、取組状況等		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	10%	課題・レポート等、取組状況等		
授業の展開					
1.	授業とセルフスタディーの説明、日本語と英語の違い(発音編)				
2.	日本語と英語の違い(書き方編)				
3.	Unit 1 College Life; 初対面の人との会話のフレーズ練習				
4.	Unit 1の続きと Unit 2 Mobile Phones;約束・予約の取り付け方と電話での会話				
5.	Unit 1のクイズとUnit 2 の続き				
6.	Unit 2のクイズ、Unit 1 & 2 のエッセイ				
7.	Unit 3 Movies;(友達などの)誘い方と断り方の練習				
8.	Unit 3の続きとUnit 4 Dating;人の描写のしかた				

9.	Unit 3のクイズとUnit 4 の続き				
10.	Unit 4のクイズ、Unit 3 & 4のエッセイ				
11.	Unit 5 International Food;お願いのしかたとレストランでの会話				
12.	Unit 5の続き & Unit 6 World Englishes; 繰り返し言ってもらうときの練習				
13.	Unit 5のクイズ、Unit 6の続き				
14.	Unit 6のクイズ、Unit 5 & 6のエッセイ				
15.	Unit 7 Weekends/Vacations; 週末や休暇について話す練習				
授業外学修について	<p>授業外の予習・復習として、以下の内容取り組むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容には授業前に目を通し、わからないことは調べておく(20分程度)。</li> <li>・授業後には、授業で扱った表現やことばの復習をしておくこと。(20分程度)。</li> <li>・各自、教科書の音声はダウンロードをすること。 <a href="https://www.kinsei-do.co.jp/download/4003">https://www.kinsei-do.co.jp/download/4003</a></li> <li>・セルフスタディー(自律学習)を授業の一環と行うため、授業で取り扱う内容とは別にセルフスタディーを各自行うことが求められる。</li> </ul>				
教科書	Global Activator; Your English, my English, world Englishes, Tadashi Snihozawa and Gregory A. King 著(金星堂)				
参考文献	特になし				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	○
成績評価の割合	0%	60%	30%	0%	10%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への出席回数が3分の2未満の場合には、本クラスは不合格となる。</li> <li>・課題は提出期限を過ぎたものや翻訳ツールを使った課題は評価対象外となる。</li> <li>・他の学生の課題や文献などをコピーをした場合は「不合格」となる。</li> <li>・授業中の居眠りやスマホいじりなどは「欠席扱い」となる。</li> <li>・授業の進度や内容などは、状況により変更の可能性がある。</li> </ul>				

(実用英語)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	時事英語				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	2 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	小川 正浩		単位認定責任者	小川 正浩	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	この授業では、国際問題をテーマにした英文を題材にして、中級レベルの英語読解力を養成することと時事問題に関する知識を深めるとともにそれに対する自己意識を高めることを目標とする。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<p>1 国際問題を歴史や人種の問題を含めてルーツ(民族・言語・宗教)から見ていくことができる。</p> <p>2 各Unitには本文(英文)とは別にそれと関連した話題(英文)が載せられていて、それによって当該国の現在の状況が把握でき、さらなる知識を深めることができる。</p> <p>3 必要な専門用語と基礎知識を身につけて、英字新聞や国際放送、インターネット情報にアクセスする力を身につけることができる(テキストの最後に関連URLが記載されている)。</p> <p>4 英語で国際問題を読み解くことで国内・国外の様々な問題を知ることができ、それに対する自分の考えをまとめて意見を述べるることができる(レポートの作成)。</p> <p>5 多読によって簡単な物語や身近なことに関する英文を和訳せずに早く読むことができる(直読直解)。</p>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	60%	期末テスト		
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	20%	課題提出(多読)、テキストの予習		
	論理性	10%	レポートの作成		
	国際性	10%	世界の諸問題に関する自分の考えや意見		
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方など)				
2.	Unit 1: Ukraine、課題提出(多読)				
3.	Unit 2: Ireland、課題提出(多読)、				
4.	Unit 3: Brexit、課題提出(多読)				
5.	Unit 4: The Second Cold War?、課題提出(多読)				
6.	Unit 5: The Baltic States、課題提出(多読)				
7.	Unit 6: Rohingya、課題提出(多読)				
8.	Unit 7: Basques、課題提出(多読)				
9.	Unit 8: Korea、課題提出(多読)				
10.	Unit 9: Romani、課題提出(多読)				
11.	Unit 10: Switzerland、課題提出(多読)				
12.	Unit 11: Hong Kong、課題提出(多読)				
13.	unit 12: The Pope and vatican City State、課題提出(多読)				

14.	Unit 13: Kurds、課題提出(多読)				
15.	まとめ				
授業外学修について	授業外学習は、以下の項目に毎週少なくとも4時間程度あてることが望ましい。 1 テキストの予習 2 多読の課題(1週間に2500語以上) 3 レポートの作成(期間指定)				
教科書	石谷由美子『Exploring the Roots of 15 Current Global Issues』(南雲堂)				
参考文献	特になし。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	○	×	○	×	○
成績評価の割合	60%	0%	20%	0%	20%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	・評価や授業の進め方、辞書の携帯等に関しては、ガイダンス時に詳細に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。 ・授業は「対面授業」のスタイルで行う。また、実際の授業にあたって上記の授業内容に変更が生じる場合があるかもしれないことを予めご了承ください。変更が生じる場合は、ガイダンス時または授業時に連絡する。				

(時事英語)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	スポーツ総合1				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	1 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	入学時のアイスブレイキングの導入と、体力診断テストとバレーボール、バスケットボールの3種目についてゲームを中心に展開する。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が主体的にそれぞれの運動種目について取り組むことができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60%	取組状況等		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	30%	取組状況等		
	創造力	%			
	責任感	10%	取組状況等		
授業の展開					
1.	ガイダンス: 受講上の注意と評価方法について				
2.	体力診断テスト I				
3.	バレーボール: パスドリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	バレーボール: レシーブ、サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	バレーボール: トスからスパイク、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	バレーボール: クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バスケットボール: パス、ドリブル、シュートの基本、ミニゲーム、3×3ゲーム				
8.	バスケットボール: オフェンスの種類と動きの解説、ゲーム				
9.	バスケットボール: ディフェンスの技術解説、ポジション確認、ゲームリーグ戦				
10.	バスケットボール: 戦術確認、ゲームリーグ戦				
11.	ソフトボール: キャッチボール、発展キャッチボール、チーム編成と簡易ゲーム				
12.	ソフトボール: ピッチング(スリングショット・ウインドミル投法等の挑戦)、チーム編成と簡易ゲーム				
13.	ソフトボール: シートノック(内野中心)、チーム編成、リーグ戦				
14.	ソフトボール: 発展シートノック、チーム編成、リーグ戦				
15.	体力診断テスト II、まとめ				

授業外学修について	<p>本授業における到達目標を各自で設定すること。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他の テスト	課題・ レポート	発表・プレゼン テーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0%	0%	0%	0%	100%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合1)

【2024 年度シラバス】

科 目 名	健康科学				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象
授 業 の 種 類	講義	単位数	1 単位	授業回数	8
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容					
授業科目の概要	我が国の科学技術や交通機関の日進月歩の発達は、国民の生活環境に大きな変化をもたらし、我々の生活をより快適で利便なものへと変化させてきました。その恩恵の反面、慢性的な運動不足による生活習慣病やストレスの増大等、我々国民の様々な健康問題を誘発するといった弊害を招いています。一方で、近年の競技スポーツはスポーツ科学の発展によって競技力が国内外問わず大きく進歩しています。本講義では、現代人が抱える健康問題を健康科学・スポーツ科学の観点から科学的根拠（学術論文）に基づいて概説します。加えて、最新の知見を紹介し、今後の自身の健康行動やスポーツ活動に活かせるように解説します。				
授業科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会の健康問題を認識し、健康観を意識することができる</li> <li>2. 健康障害と生活習慣の関連を認識し、運動の必要性を意識することができる</li> <li>3. 基本的な身体解剖学・生理学・栄養学の知識を身につけることができる</li> <li>4. 学修した知識を活かして、健康増進に必要な方策を設計できる</li> <li>5. 学修した知識を活かして、スポーツ競技力向上に必要な方策を設計できる</li> </ol>				
学修成果評価項目（%）および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	20%	小テスト		
	専門知識	50%	小テスト		
	倫理観	%			
	主体性	%			
	論理性	30%	レポート		
	国際性	%			
	協調性	%			
	創造力	%			
	責任感	%			
授業の展開					
1.	ガイダンス(授業の進め方)、データの見方、健康観 健康を意識する、動物としての人間の健康を考える				
2.	生活習慣病				
3.	メンタルヘルス、目標設定				
4.	体力、疲労と回復				
5.	身体組成、PFC、水分補給 運動神経と自律神経、交感神経と副交感神経				
6.	トレーニング理論、有酸素性運動 摂取カロリーと消費カロリー				
7.	体温調節、身体冷却 ウォーミングアップ、トレーニング、クールダウン、救急法				

8.	発育発達加齢 まとめ(レポートの課題・作成方法、授業評価)				
9.					
10.					
11.					
12.					
13.					
14.					
15.					
授業外学修について	前回授業内容に係る小テストを実施するので、復習をしておくこと				
教科書	なし、資料を配布する。				
参考文献	「実習で学ぶ健康・運動・スポーツの科学」九州大学健康科学センター編 大修館書店 2011 「NSCA決定版(第3版)ストレングストレーニング&コンディショニング」日本語版総監訳 金久博明 ブックハウスHD 2015 「スポーツ栄養学 科学の基礎からなぜ?にこたえる」寺田新 東京大学出版会 2017 「2020年版スポーツ栄養学最新理論」寺田新編著 市村出版 2020 「スポーツ現場における暑さ対策 スポーツの安全とパフォーマンス向上のために」長谷川博・中村大輔編著 2021				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	○	○	×	×
成績評価の割合	0%	60%	40%	0%	0%
成績評価の基準	本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項	この講義は全8回です。				

(健康科学)



【2024 年度シラバス】

科 目 名	スポーツ総合2				
配 当 学 年	1年	必修・選択	選択	CAP制	対象外
授 業 の 種 類	実習	単位数	1 単位	授業回数	15
授 業 担 当 者	内藤 貴司(非常勤講師)		単位認定責任者	内藤 貴司	
実務経験の有無	無				
実務経験のある教員名および授業の関連内容	-				
授業科目の概要	クラスの意識を持たせるためにチームゲーム、団体戦方式でミニバレー、ラケットテニス、卓球の3種目を展開し、フィットネステスト(新体カテスト)では、現状における個々人の体力確認をする。受講者数に応じて内容をカスタマイズすることがある。				
授 業 科 目 の 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受講者が主体的にそれぞれの運動種目についての取り組むことができる。</li> <li>2. チームメイトとコミュニケーションができる。</li> <li>3. 受講者がそれぞれの運動種目における基本練習について、内容把握ができる。</li> <li>4. それぞれの競技種目のルールを理解し、ゲーム管理ができる。</li> <li>5. 体力レベルの劣る受講者への配慮と協力ができる。</li> </ol>				
学修成果評価項目(%)および評価方法	項目	割合	評価方法		
	基礎学力	%			
	専門知識	%			
	倫理観	%			
	主体性	60%	取組状況等		
	論理性	%			
	国際性	%			
	協調性	30%	取組状況等		
	創造力	%			
責任感	10%	取組状況等			
授業の展開					
1.	ガイダンス:受講上の注意と評価方法について				
2.	フィットネステスト I				
3.	ミニバレーボール:パズドリル、チーム編成と簡易ゲーム				
4.	ミニバレーボール:サーブ&レシーブ、リーグ戦				
5.	ミニバレーボール:スパイク、ブロック、レシーブフォーメーション、リーグ戦				
6.	ミニバレーボール:クイック・ブロックフォーメーション、リーグ戦				
7.	バドミントン:クリア、ドロップ、ヘアピン等のショットスキルの習得、2人組ラリー、簡易ゲーム				
8.	バドミントン:スマッシュ、ドロップの使い分け、シングルスリーグ戦				
9.	バドミントン:応用ストローク、ブロック別のダブルスローテーションゲーム				
10.	バドミントン:ストロークの完成、参加者全員によるダブルスローテーションリーグ戦				
11.	卓球:サービス&フォアハンドストローク、シングルスゲーム				
12.	卓球:バックハンドストローク、1対1のラリー、シングルスゲーム				
13.	卓球:ショート打法とスマッシュ、ダブルスゲーム				
14.	卓球:ドライブ&カット打法、ダブルスゲーム				
15.	フィットネステスト II、まとめ				

授業外学修について	<p>本授業における到達目標を各自で設定すること。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチングの手順と種類を用意しておく。</li> <li>・基礎技術練習を考えておく。</li> <li>・選択種目のルールを確認しておく。</li> <li>・ゲーム評価を含め、前回の授業内容を整理しておく。</li> </ul> <p>* 授業開始前、終了後の体力づくり、トレーニング、健康関係の質問、相談に対処する。</p>				
教科書	使用しない。				
参考文献	資料等は適宜配布する。				
試験等の実施	定期試験	その他のテスト	課題・レポート	発表・プレゼンテーション	取組状況等
	×	×	×	×	○
成績評価の割合	0%	0%	0%	0%	100%
成績評価の基準	<p>本学の評価基準に基づき、成績評価を行う。</p> <p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)</p>				
試験等の実施、成績評価の基準に関する補足事項					

(スポーツ総合2)